

DC CARD

ロゴ十ノ日

9 September 2010

「パートナー」

秋の楽しみ。

秋の香り、



秋の味、

味わう。

キノコ、

Feature scene of NAGATSUKI

観光立国日本の設計図。

text by Masaru Suzuki illustration by Noriyuki Goto

文・鈴木 勝

インとアウトの バランスが イビツな観光国、 日本

今や世界は、グローバル大交流時代の到来です。世界観光客到着数が9億人に達し、年々、世界が拡大する中で、日本はどうでしょうか。世界観光客到着数とは、簡単に言えば、1年間に世界を旅行しているソーリスト数ですが、残念ながら、乗り遅れぎみのニッポンなのです。確かに一面的には日本は大交流の一翼を担つていますが、これは「アウトバウンド」と称される日本からの1700万人を超える海外旅行者。他方、「観光立国日本」がより問われる「インバウンド」の訪日外国人旅行者は、長年、400～500万人と低いレベルでした。極めて、イビツな観光国として推移してきたわけです。この状況下で、小泉首相（当時）は2003年の施政方針演説で、「観光立国」の道を表明し、「2010年に1000万人（テン・ミリオン計画）」の話題とは

風もあつたと考えられます。

ところが、2008年秋からは突然、外国人旅行者の下落が見られます。要因は、世界的な経済不況や円高ですが、現在は、急速に復活中です。

国際観光力の アップがもたらす さまざまな効果

さて、2008年10月に観光政策の司令塔として「観光庁」がスタートし、「観光立国日本」への歩みが一段と強まっています。特に次のことを期待したいと思います。各省庁にまたがった観光予算を効果的に使うために、「観光庁」の強力なリーダーシップを願っています。また、「中央政府」と「地域・地方自治体」が密に、そして強力に連携してほしい。なぜなら、地域活性化が「観光立国日本」の力ギを握ると考えるからです。新政権スタートと同時に、「訪日外国人旅行者を2000万人に」というターゲットが4年ほど前倒しされました。この目標到達にはかなり思い切った観光振興政策を、同

れています。今後は、英語、中国語、ハングルなどでどんどん発信すべきでしょう。

観光立国日本の 実現へ クリアすべき 課題とは



絵・後藤範行

すずき まさる／桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授、大阪観光大学（旧称・大阪明淨大学）名誉教授。専門は国際ツーリズム振興論・観光マーケティング論。JTBアジア・取締役日本支社長を経て大学教授となる。オーストラリア、中国に長く駐在した経験による実践的な国際ツーリズム論は定評がある。主な著書に『観光立国ニッポン事始め』『観光後進国ニッポン、海外に学べ!』（NCコミュニケーションズ／日中出版）ほか多数。シリーズ最新刊『観光学入門「実践篇」』は2010年8月発売予定。

バランスが
イビツな観光国、
日本

今や世界は、グローバル大交流時代の到来です。世界観光客到着数が9億人に達し、年々、世界が拡大する中で、日本はどうでしょうか。世界観光客到着数とは、簡単に言えば、1年間に世界を旅行しているソーリスト数ですが、残念ながら、乗り遅れぎみのニッポンなのです。確かに一面的には日本は大交流の一翼を担つていますが、これは「アウトバウンド」と称される日本からの1700万人を超える海外旅行者。他方、「観光立国日本」がより問われる「インバウンド」の訪日外国人旅行者は、長年、400～500万人と低いレベルでした。極めて、イビツな観光国として推移してきたわけです。この状況下で、小泉首相（当時）は2003年の施政方針演説で、「観光立国」の道を表明し、「2010年に1000万人（テン・ミリオン計画）」の話題とは

人（テン・ミリオン計画）」の話題とは

り思い切った観光振興政策を、同

また、「日本国民のホスピタリティー」に関して、「世界旅行・観光競争力ランキング」が毎年、

日外国人誘致プランを発表したわけです。「観光」を即効性ある景気浮揚策の「切り札」として考え、同時に「外国人による日本の理解不足」や「国際文化交流面での弱さ」を挽回する作戦でもあります。こうした誘致キャンペーングの展開効果が出ており、次のような調子で伸びて、イビツさが解消されています。

日本人海外旅行者・訪日外国人旅行者 1781万人・475万人
日本人海外旅行者・訪日外国人旅行者 1599万人・835万人
II 4.1 (2000年)
II 2.1 (2008年)

時進行型で打ち出され、い限り極めて難しいとれます。

ところで、このように国際観光に力を入れるのは、どのような効果があるのでしょうか。一般に「経済的、社会文化化的、自然環境的」効果があります。

今まで、とにかく外貨獲得や雇用アップなどの経済効果の偏重傾向にありました。これが今は国際理解や協力などの社会文化的な側面、そして自然资源の保護・保全やエコツーリズムなどを推進する自然環境的側面も同様に重視する必要があります。



(問) カードの暗証番号入力が、

必要になるのはどれ？

- A ICカード対応加盟店*
- B 駅の自動券売機
- C 病院の自動精算機
- D マネーサービスのATM

*ICカードをご利用の場合

答. すべて必要です。

暗証番号は、
さまざまなシーンで
必要になります。

暗証番号の入力が必要となるシーンが増えています。また、海外のICカード対応加盟店で、ICカードを利用する場合は、暗証番号をご入力いただかないと、クレジットカードをご利用いただけない場合もございます。

*海外のICカード対応加盟店でICカードを利用する際は、暗証番号とともにサインをいただく場合もございます。
※国によっては5桁以上の暗証番号の入力を求めるところもございますが、国内同様「4桁の暗証番号」をご入力の後、「ENTER(確定)キー」を押してくださいだければご利用いただけます。



●ICチップ部分を折り曲げたり圧力をかけたりすると、ICチップが破損し、使用できなくなる場合がございますのでご注意ください。

※ご所属のカード会社やカード種類によっては、ICカードを発行していない場合もございますので、ご了承ください。

詳しくは、三菱UFJニコスWEBサイトで
<http://cr.mufg.jp>
▶「メリット&サービス」
▶カードの基本の「クレジットカードのご利用について」
▶「暗証番号」

暗証番号は大切な情報です。

お忘れにならないよう、また、第三者に知られないように管理をお願いいたします。

さて、今後、「観光立国日本」に向けて力を入れるべき課題はどういうものがあるでしょうか。まず、何と言っても「情報発信」。わが国の「観光」が日本国民や海外諸国から、十分、理解されないません。理由として、情報発信の「量・質」が、ともに極めて乏しく、また、日本語以外で発信されていないことに起因しています。

現在、世界の政府観光局がホームページなどを駆使して、海外旅行客を呼び込もうとあらゆる知恵を絞っています。しかし、日本は、海外の観光先進国と比較すれば大いに見劣りすることは否めません。「インバウンド&アウトバウンドの均衡のとれた日本」であり、それらが拡大基調で達成される國が「眞の観光立国」であろうと思っています。

最後に、「TWO WAY TOURISM」(ツーウェイツーリズム)について。インバウンドを活性化させるためには、日本人の「豊かな国民生活の実現」の一形態であるアウトバウンドも同時に、盛んにすることが必要なのです。すなわち、「インバウンド&アウトバウンドの均衡のとれた日本」であり、それらが拡大基調で達成される國が「眞の観光立国」であろうと思っています。